

## 学会彙報

(昭和四十年前期)

### ○新入会員歓迎会

(五月六日、於妙心寺天球院)

今年度は大学院、文学部あわせて二十九名の新入会員を迎えた。新入会員の自己紹介に続いて、諸先生方から佛教研究に関するいろいろなご指導を受けた。

出席者 舟橋主任教授以下諸先生、学生等四十二名

### ○研究発表会(六月九日)

#### 研究発表

「大乘論における小乗のアーラヤ異門について」 大学院学生 片野道雄氏

所知依分中アーラヤ識が声聞乗の伝承(アーラヤ、根本識、窮生死蘊、有分)の上に開顯しようとしていた点の、チベットの訳参見による研究成果の要綱を発表する。

「日本文化に含まれた佛教の実相観念」

講師 白土わか氏

主として平安、鎌倉時代の文学作品の中に、天台教学の諸法実相観が多分に影響している点に着眼し、種々の例証をあげながら佛教文学を思想的に解明する。

出席者 舟橋、山田、安藤、安井、桜部、坂東各先生、鍵主、長崎助手、ほか  
に学生三十名

○白土先生渡佛壮行会及び徳岡氏帰国歓迎会(九月二十二日)

東洋の思想は佛教と切離して考えられないというのがフランス東洋学の伝統的精神である。日本文学の研究者 Bernard Frank教授(Directeur d'École Pratique des Hautes Etudes)は、佛教に通暁する日本文学の研究者を求めていたので、白土わか先生は教授と共同研究を行うために渡佛された。

徳岡亮英氏はナールランダ・パーリ研究所で四年間日本語、支那語の講師をしておられた。

○公開講演会(十月二十日、東洋学会共催)

#### 講演

「二十世紀におけるイギリス東洋学の展

開」

ロンドン大学教授

ジョン・ブラフ博士

文部省の「文化協定締結国からの学者紹致計画」に基づいて京都大学に来ておられる博士を招き、新装成った一号館の視聴覚教室にて公開講演会を開いた。博士は「The Gandari Dharmapada」なる研究書を出版され、ブラクリットの研究者として著名である。現在博士はロンドン大学東洋・アフリカ学院の南アジア学科主任教授であり、講演ではその学院の歴史を中心にして東洋学研究の歴史を述べられた。

○十一月十二日、山口益名誉教授が日本学士院会員に選出された。これは昨年、先生が文化功労者として顕彰されたのに引き続いたの快報である。先生の研究の御功績はとて筆舌に尽くし得ないが、主としてインド大乘佛教に関する文献学的研究や仏教思想の歴史的展開、更に西藏大蔵経の影印出版を監修されたことにより今回の推挙になったものである。